

実践例についての確認事項

※第3章の実践例について、今回、御提出いただいた案を踏まえ、

- ・対応する際のポイント
- ・実践例

について記載いただく想定で進めさせていただきます。このことについて、御意見がありましたら事務局までご連絡ください。

――
執筆にあたって、以下の点、認識を共有させていただきます。まず、繰り返しになりますが、本ガイドは、「**初任者向けのガイド**」です。文章量が多くなり過ぎないこと、分かりやすい言葉（用語）を用いること、について、改めてご確認願います。

○対応する際のポイントについて

- ・ポイントを見れば、設問の答えが分かるように記載する。
- ・障害種が絞られないような一般的な書きぶりとする。
※障害種固有のことについては、事例や補足として触れることとする。
- ・ポイントは盛り込み過ぎず、絶対におさえておくべきことに絞る。
- ・ポイントに優先順位があるものは、（番号を付すなど）それが分かるように記載してください。また、優先順位のないものは、順位があるのとられないように記載してください。

○実践例について

- ・汎用性の高い事例とする。
- ・子供の実態・保護者の状況等と具体的な対応の関連性が分かるように記載する。
- ・抽象的な表現を避け、分かりやすい表現を心掛ける。
- ・教材など、独自の名称は、一般的な用語に置き換えるか、写真等で補う。

上記を踏まえ、事務局より、適宜コメントを付しているほか、以下の点について修正しています。

- ・設問について、一つの実践例に複数の問いが設けられていて記載が難しくなっていたり、読み手によってとらえ方に違いが生じる可能性があるものなど、今回提出いただいた案を踏まえて、適宜修正していますので、ご確認願います。
- ・「子ども」→「子供」など、全体の平仄を整える修正をしています。
- ・分かりやすい表現を心掛けていただいておりますが、必ずしも意味しているものが明確でないような箇所は適宜修正しております。ただ、事務局の修文で確定ではないので、この後の原稿の執筆に際しては、一つの参考としていただければと思います。